

— 桃生郡北上町 —

長塩谷板碑群
第二次調査報告

宮城県桃生郡河北地区教育委員会

昭和六十二年八月

序

桃生郡河北地区教育委員会

教育長 千葉 和音

昭和五十八年第一次発掘調査により、長塩谷板碑群は、量的にも質的にもすぐれた中世史料であることが明らかになりました。その後、断続的に板碑群が存在する急傾斜地の崩落が続き、更に多くの板碑が発見されています。

今回、石巻土木事務所が「急傾斜地危険区域」対策防護壁を構築することになり、同板碑群遺跡の記録保存並びに出土した板碑の整備保存の必要から、第二次発掘調査を実施しました。調査を担当した文化財保護委員長紫桃正隆氏により、その成果をおまとめいただきましたので、前報告書同様資料として、広く活用されることをのぞみます。

最後に、本書の刊行にあたりまして、関係されました方々の御尽力に深甚なる感謝の意を表します。

昭和六十二年二月



移設現地

一、調査主体 宮城県桃生郡河北地区教育委員会、同文化財保護委員会

二、調査担当者 調査責任者 紫 桃 正 隆（同文化財保護委員長）

調査員 西 條 久 雄（同文化財保護副委員長）

” 今 野 清 幸（同文化財保護委員）

” 館 岡 榮 志（ ” ” ）

特別調査員 高 橋 精 一（「石巻石佛研究会」副会長）

” 館 田 虎 弥 太（前河北地区文化財保護副委員長）

調査助手 西 島 恵 美（石巻市誌編纂室嘱託）

” 武 山 明（県立飯野川高校生）

事務局 遠 藤 定 治（河北地区教委社会教育課長）

” 宇 佐 美 研（同社会教育主事）

特別協力員 中 村 光 一（石巻文化センター学芸員）

勝 倉 元 吉 郎（「石巻石佛研究会」会長）

三、期 間 昭和六十二年八月一日～八月十日

四、所在地 宮城県桃生郡北上町十三浜字長塩谷五十七

佐藤さかえ氏宅裏地

五、地 主 前 同

六、調査の経緯と概要

北上町長塩谷の部落裏山、特に古い時代に月浜へ通じた田街道脇の山裾付近は、板碑の群立地帯で、この板碑群は昭和五十八年に行われた地区教委の調査によって六十三基が発掘収集された。これが第一次調査である。調査結果

は報告書に作制されると共に、当該碑群は約百米ほど北に位置する春日神社社地脇に運ばれ、二段にしつらえた壇上に報告書と照合できる順番に並べ建立し、移設作業は完了した。

板碑がもともと造立されていた現地は、山の急斜面に立地していたため、ある時期に発生した山崩れにあい、流出、あるいは埋没してしまい、現状に復するのは不可能の状況にあった。文化財遺物を安全且、保護の容易な新施設に移転せざるを得ない、前記のゆえんであったが、自然現象に伴う地表の変化で、再度、未確認の新遺物が出現するであろうとは凡その予想であった。あにたがわず、以来四年の間にかなりの数の石造物が出現、収集され、そして今回の二次調査の運びとなった。

今回の調査は昭和六十二年八月一日にはじまり同月二十日に終了した。調査対象となった石の数は三十四基である。まよめの項で詳述してあるが、碑数は少なかったものの板碑研究の上で貴重な発見があり、画期的な成果を挙げ得たと思う。なお、本調査報告書は一次調査報告に引続く全くの続編であるので、本来詳細を綴るべき埋蔵遺跡を中心とした歴史背景、現地事情などは前報告書にゆだねることとし、すべて省略した。詳細を知るには一次、二次両報告書を併せ照合することが望ましい。

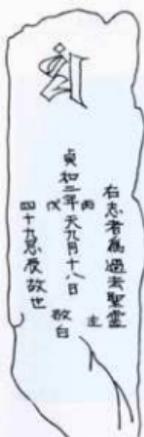


長塩谷板碑群一覽表

(No.63
S
No.96)



No.64



種子 文 文殊菩薩
 年号 貞和2年 1346 南北朝初期
 偽
 その他 四十九日供養碑 粘板岩
 H : 137cm W : 30cm T : 7cm

No.63



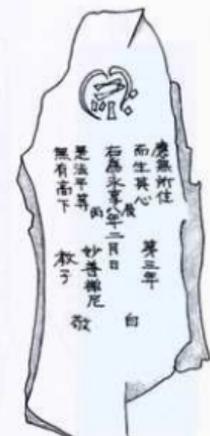
種子 大 大日如来 (金剛界)
 年号 応永10年 1403 室町初期
 偽 五輪塔婆 (兜心門、修行門、菩提門、涅槃門)
 その他 西願供養の碑 粘板岩
 H : 96cm W : 45cm T : 10cm

No.66



種子 虚 タラーク 虚空藏菩薩
 年号 永享6年 1434 室町初期
 偽
 その他 三十三回忌供養碑 粘板岩
 H : 77cm W : 19.5cm T : 6cm

No.65



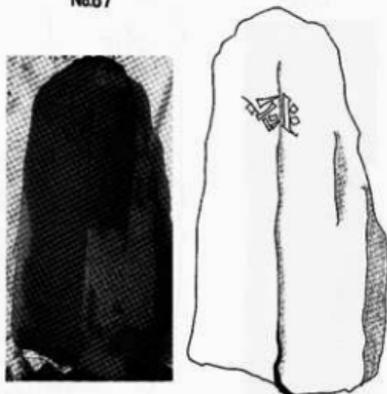
種子 阿 キリク 阿弥陀如来
 年号 永享8年 1436 室町初期
 偽
 その他 種子は佛の莊嚴体
 種子・銘文とも金箔で銀鍍 砂岩
 H : 85cm W : 23cm T : 14cm

No.68



種子 刹 サ 観世音菩薩
 年号
 傷 往生要集
 その他 住仙禪門百ヶ日供養碑 断碑
 種子・銘文は金箔にて銀飾 粘板岩
 H : 50cm W : 30cm T : 6cm

No.67



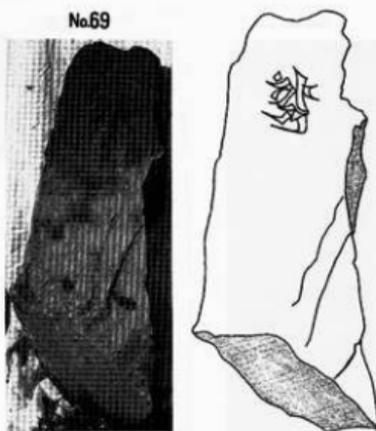
種子 刹 サク 勢至菩薩
 年号
 傷
 その他 一圓忌供養碑 粘板岩
 H : 55cm W : 25cm T : 6cm

No.70



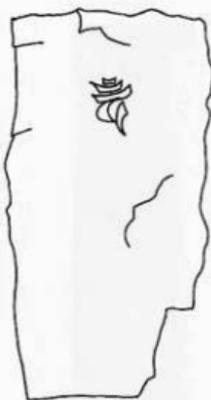
種子 刹 サ 観世音菩薩
 年号
 傷
 その他 道永の百ヶ日供養碑
 種子・銘文金箔にて銀飾 粘板岩
 H : 54cm W : 12.5cm T : 7.5cm

No.69



種子 刹 バアंक 大日如米 (胎藏界)
 年号
 傷
 その他 粘板岩
 H : 50cm W : 14.5cm T : 5cm

No.72



種子 **潘** 大日如来 (金剛界)
 年号
 偶
 その他 種子は圓形 粘板岩

H : 65.5cm W : 33.5cm T : 7cm

No.71



種子 **夙** 素師如来
 年号
 偶
 その他 断碑 種子は金箔で裝飾 粘板岩

H : 64cm W : 37cm T : 3.5cm

No.74



種子 **タ** タラク 虚空藏菩薩
 年号
 偶
 その他 種子は金箔で裝飾 粘板岩

H : 70cm W : 29cm T : 10cm

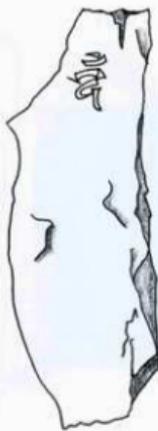
No.73



種子
 年号
 偶 往生要集
 その他 断碑 銘文は金箔で裝飾 粘板岩

H : 60cm W : 20cm T : 13cm

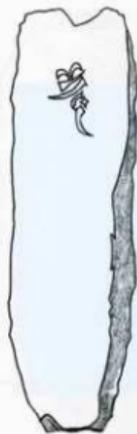
No.76



種子 **バ** バン 大日如来 (金剛界)
 年号
 偶
 その他 粘板岩

H : 69cm W : 23cm T : 6 cm

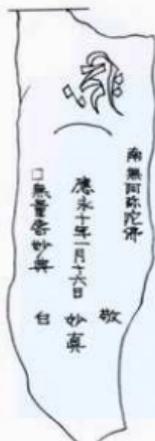
No.75



種子 **ベ** ベイ 薬師如来
 年号
 偶
 その他 種子は金箔で厳飾 粘板岩

H : 68cm W : 14.5cm T : 10cm

No.78



種子 **キ** キリーク 阿弥陀如来
 年号 応永10年 1403 室町初期
 偶 無量寿妙典
 その他 妙真の三國总供養碑
 粘板岩 内相上部のみあり

H : 75cm W : 16cm T : 7 cm

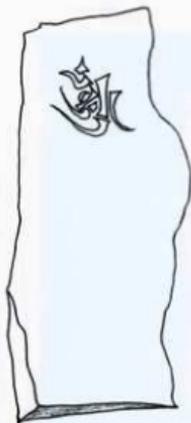
No.77



種子 **サ** サ 観世音菩薩
 年号
 偶
 その他 道水の百々日供養碑 粘板岩

H : 64cm W : 40cm T : 9 cm

No.80



種子	梵	パアंक	大日如来 (胎藏界)
----	---	------	------------

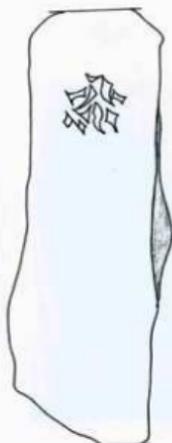
年号	
----	--

偽	
---	--

その他	種子は金箔で彫飾 粘板岩
-----	--------------

H : 38cm W : 10.5cm T : 6cm

No.79



種子	梵	キリーク	阿弥陀如来
----	---	------	-------

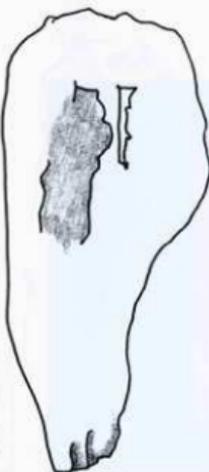
年号	
----	--

偽	
---	--

その他	粘板岩
-----	-----

H : 84cm W : 20cm T : 8cm

No.82



種子	右側のみで判読不能
----	-----------

年号	
----	--

偽	
---	--

その他	金箔にて彫飾 粘板岩 本遺跡では最小の碑である
-----	----------------------------

H : 28cm W : 10cm T : 2.5cm

No.81



種子	梵	サク	勢至菩薩
----	---	----	------

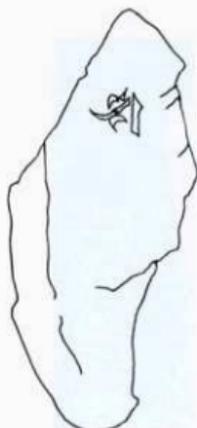
年号	
----	--

偽	
---	--

その他	妙春の一周忌供養碑 金箔にて彫飾 粘板岩
-----	-------------------------

H : 70cm W : 18cm T : 13cm

No.84

種子 **サ** 観世音菩薩

年号

偶

その他 粘板岩

H: 61cm W: 28cm T: 7.5cm

No.83

種子 **バン** 大日如来 (金剛界)

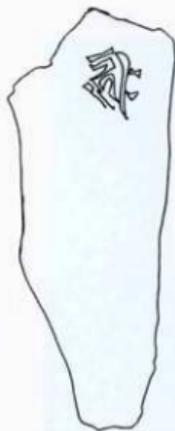
年号 延慶2年 1308 鎌倉末期

偶

その他 中央裂断 粘板岩

H: 87cm W: 24cm T: 5.5cm

No.86

種子 **キ** キリーク 阿弥陀如来

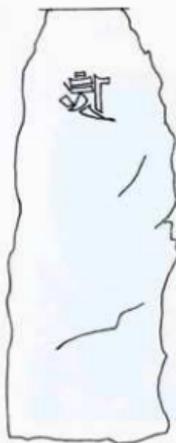
年号

偶

その他 花崗岩

H: 58cm W: 15cm T: 11.5cm

No.85

種子 **アン** アン 普賢菩薩

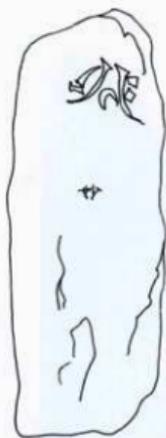
年号

偶

その他 種子は平形 花崗岩

H: 90cm W: 24cm T: 16cm

No.88



種子 札: サク 勢至菩薩

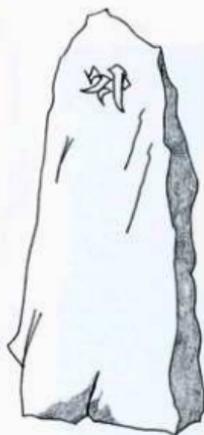
年号

傷

その他 妙口の墨書あり
金箔で銀飾 粘板岩

H : 56cm W : 15cm T : 7cm

No.87



種子 札: サク 勢至菩薩

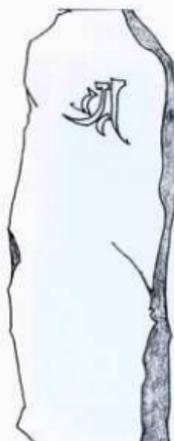
年号

傷

その他 種子は金箔で銀飾 粘板岩

H : 62cm W : 20cm T : 11cm

No.90



種子 札: サ 観世音菩薩

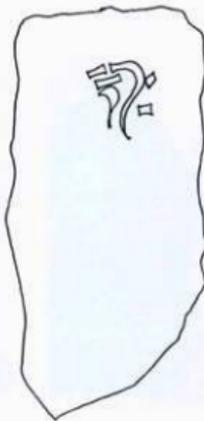
年号

傷

その他 種子は金箔で銀飾 粘板岩

H : 65cm W : 16.5cm T : 8cm

No.89



種子 札: キリーク 阿弥陀如来

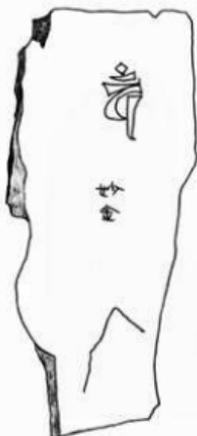
年号

傷

その他 種子は平形、ノミの跡あり
金箔で銀飾 粘板岩

H : 47cm W : 19cm T : 7cm

No.92



種子
年号
偽
その他

パン 大日如来 (金剛界)

妙金の墨線あり
種子銘文は金箔で彫飾 粘板岩

H : 53cm W : 16cm T : 7cm

No.91



種子
年号
偽
その他

妙永禪尼の供養碑 断碑
銘文は金箔で彫飾 粘板岩

H : 60cm W : 13cm T : 11cm

No.94



種子
年号
偽
その他

○地藏マーク 粘板岩 金箔で彫飾

H : 49cm W : 21cm T : 7cm

No.93



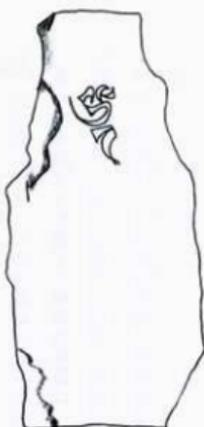
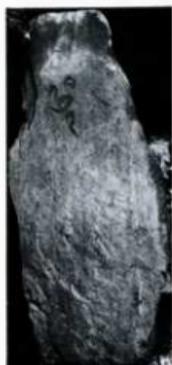
種子
年号
偽
その他

パン 大日如来 (金剛界)

種子は金箔で彫飾 粘板岩

H : 44cm W : 14.5cm T : 10cm

No.96



種子  ベイ 薬師如来

年号

偶

その他 粘板岩

H : 60cm W : 24cm T : 5cm

No.95



種子  バシ 大日如来 (金剛界)

年号 応永2年 1395 室町初期

偶

その他 粘板岩

H : 90cm W : 24cm T : 16cm

ま と め

一、今回収録した碑数はNo.63からNo.96までの三十四基である。その個々については前記一覧表に詳記してある。但し、No.63は一次調査の最終番号で、この碑は以前に館田虎弥太が記録したものを、実物が発見できぬまま、野帳より写して掲載したので重複している。今回その本体が出土したので改めてとり上げた。

二、板碑の形状は一般に小型で、石材は付近より容易に採集できる粘板岩、花崗岩、砂岩の類である。長塩谷遺跡より収集した板碑の総数は、一次のものと同合わせ九十六基となり、石巻地方での単一遺跡では最多な数となる。碑高の最高は一三七種（No.64）、最低は二十八種（No.82）で、平均が七〇〜八〇種、概して小型で素材な造りであるのが一次調査と

共通する。

三、紀年銘の明らかな碑は意外と少く、七基に過ぎない。紀年銘を有する碑の通番（No.）を年代順に並べたのが【表1】で、それを造立年代分布数としてまとめたのが【表2】である。

【表1】

年号	年	通番
延慶	2 (1309)	83
貞和	2 (1346)	64
応永	2 (1395)	95
"	10	63
"	10	78
永享	6 (1434)	66
"	8	65
計 7 基		

〈注〉 応永10年(63)は一次調査と重複して計算してある。

【表2】

年号	数	
延慶	1	鎌倉末
貞和	1	南北朝初
応永	3	室町初
永享	2	
計 7 基		

更に本道跡の結果を総合的に見るため、一次、二次調査結果を総合した。全体の「有紀年板碑の通番(No.)一覧表」は【表1総】となり、全体の「有紀年板碑年代別分布数」は【表2総】となる。

年号	数	
延慶	1	鎌倉末
貞和	1	(初)
貞治	2	南(中)
応安	4	北
康応	2	朝(末)
応永	9	室(初)
永享	12	町
天文 (1532)	1	(末)
計	36基	

【表2総】

年号	年	通番	年号	年	通番
延慶	2 (1309)	83	応永か?		46
貞和	2 (1346)	64	永享	2 (1430)	40
貞治	2 (1363)	14	"	2	42
"	2	36	"	3	26
応安	5 (1372)	3	"	4	37
"	6	35	"	5	38
"	7	47	"	5	41
"	7	58	"	5	49
康応	2 (1390)	32	"	5	52
"	2	62	"	6	5
応永	2 (1395)	20	"	6	66
"	2	95	"	6	30
"	6	29	"	7	33
"	9	12	"	8	65
"	10	63	永享か?		16
"	10	78	天文	17 (1548)	4
"	12	27	延慶2年 (1309)		
"	14	31	~天文17年 (1548)		
"	18	1			
"	22	2	計 36 基		

【表1総】

有紀年板碑（年号が読みとれる板碑）は二次調査では七基発見され、一次、二次総合では三十六基となる。それを年代別に分類すると、応永、永享年間など、いわゆる室町時代初期（一四〇〇頃）のものが圧倒的に多く、二十一基で、全体の六〇%を占める。そして南北朝期のものがこれに次ぐ。

四、種子（梵字）が彫られた碑（有種子板碑）

は三十一基で、全体の八十六%に達する。それを種子別に分類したのが【表3】で種子の中で格別に多く見られたのはサ（7）サ（6）サ（5）などであった。

十三佛信仰に伴う種子配列は、室町時代に入り確立されていて、本碑の造立の多くは室町初期になされているので、丁度十三佛配列の原則が導入された時代と一致する。その原則に従って解釈すると、サバン（十三回忌）、ササ（百ヶ日）、サキリーク（三周忌）が断然多かったということになる。その傾向は現代の祭祀風習と共通するように思われる。

なお、有種子板碑を一次、二次と併せ総合したのが【表3線】である。有種子板碑の合計は九十七基（三尊形式がある

【表3】

種	子	年	忌	板碑数	No.
文	(マン)	文殊菩薩	三 七 日	1	64
普	(アン)	普賢菩薩	四 七 日	1	85
業	(ベイ)	業師如来	七 七 日	3	71.75.96
觀	(サ)	觀世音菩薩	百 ヶ 日	6	68.70.77 84.87.90
勢	(サク)	勢至菩薩	一 周 忌	3	67.81.88
阿	(キリーク)	阿弥陀如来	三 周 忌	5	65.78.79 86.89
大	(バン)	大日如来 (金剛界)	十三回忌	7	63.72.76 83.92.93 95
虛	(タラーク)	虚空藏菩薩	三十三回忌	2	64.74
大	(バアंक)	大日如来 (胎藏界)	五点具足	2	69.80
地	(イーの略)	地藏菩薩		1	94
計 31 基					

有種子板碑種子別分類表			
種	子	年 忌	板碑数
㊦	(マン) 文殊菩薩	三 七 日	1
㊧	(アン) 普賢菩薩	四 七 日	1
㊨	(カ) 地藏菩薩	五 七 日	9
㊩	(ベイ) 薬師如来	七 七 日	11
㊪	(サ) 観世音菩薩	百ヶ日	21
㊫	(サク) 勢至菩薩	一 周 忌	13
㊬	(キリーク) 阿弥陀如来	三 周 忌	14
㊭	(ウーン) 阿闍如来	七 周 忌	3
㊮	(バン) 大日如来	十三周忌	16
㊯	(アアंक) 大日如来	(五点具足)	1
㊰	(タラーク) 虚空蔵菩薩	三十三回忌	3
㊱	(バアंक) 大日如来	(五点具足)	3
○	(イーの略) 地藏菩薩		1
			計97

注1. 年忌供養としての上記十三佛の配列は室町以降の配列といわれ、南北朝期、鎌倉期のものには適合できない。

- ㊯(胎蔵界) ㊰(金剛界) など大日種子の五点具足は十七年忌、二十三年忌、二十七年忌、五十年忌、百年忌などに用いられる。
- 当地区の板碑には三尊形式をなすものが数基あるため延数が碑の合計数よりも多くなった。

ので重複して計算され実数より多くなる)にのぼるが、格別に多く使われる種子(格別に多い年忌)とか分布の傾向は一次、二次とも共通している。

また種子の彫刻技法の面でいえばNo.75、No.85、No.89のように平彫り、皿彫りの形式が見られ、技法面では注目される。種子以外の銘文は割合に少く、単に種子だけのものが圧倒的に多い。これは最初から銘文を入れぬのではなく、のちに消滅したのではなにかとの疑念がもたれる。(七の項、参照)

偶として明瞭に読みとれるのは往生要集、の一文(No.73)だけであった。

五、種子、銘文を金活で以て装飾したものは十八基で、五〇%を占める。これは一次調査の総括と共通するもので、本遺物の一つの特長といえる。

六、物故者年忌供養のうち、特定の人物に對

する複数の供養碑が発見できたのは本遺跡の大きな特長であることは一次調査のまとめでも述べたが、今回もまた被祭祀者の名が多く浮び上った。例えば妙善禪尼(Na.65)、佳仙(Na.68)、道永(Na.70、77)、妙真(Na.78)、三回忌、妙春(Na.81)、一周忌、妙水(Na.91)、妙金(Na.92)などがこれである。前調査のものにこれを加えると一段と祭祀のさまが鮮明となり資料価値が高められる。一次、二次を総合したものの中から数例を選び、次に再掲して参考に供したい。

同一遺跡において特定の物故者に対する複数の板碑が出現する例は稀で、珍重すべき資料といわねばならない。河北地区内では先き(昭和五十八年)に二例発見され、今回の長塚谷からは五例発見されている。しかも重複といっても三回以上の重複も見られるのである。一例を(イ)了

(イ) 了覚禪門供養の碑

No. 33	No. 30	No. 41	No. 38	No. 49
				
右為永七年今日 卯 乙 了覚禪門第三年	永享六年今日 刀 甲 了覚禪門	永享五年 癸 丑 了覚禪門	永享五年今日 癸 丑 了覚禪門	永享五年 癸 丑 了覚禪門
供養 同人三周忌(葬)	供養 同人一周忌(葬)	供養 同人百ヶ日(葬)	同人 七七日(葬) 供養と推定	了覚禪門の 五七日(葬) 供養

(ロ) 妙月禪尼供養の碑

No. 26	No. 42	No. 40
		
永享三年四月二十八日 妙月	永享二年 妙月	永享二年六月十六日 妙月禪尼
同人 一周忌(葬) 供養	同人 百ヶ日(葬) 供養 四ノNo.26よりして 四月二十八日死か	妙月禪尼 七七日(葬) 供養 碑

注・妙月は了覚の妻か？

「覚禪門」にとつて考察しても、この人の場合の供養碑としては、五七日(卍)、七七日(卍)百々日(卍)一周忌(卍)三周忌(卍)と、連続して六個の碑が発見できた。しかも種子の彫刻が、十三佛配列の原則を踏襲していて、その理論の正しさを証明する。他の(口)妙月禪尼、(ハ)西願禪門、(ニ)住仙禪門の場合も全く同断である。管見であるが、泉内においては稀有の例だと思考される。将来、板碑研究、特に室町時代以降の種子と十三佛配列の関係を研究する上で、好個の資料となり得ると信ずる。

七、今回の調査において、もう一つの画期的発見があった。それはNo.92の碑を精査した際、銘文の一部に墨銘が確認されたことである。すなわち、種子(卍)の下十五種の所に、金箔で彩れた「妙金」という被祭祀者の名前が判読され、更にその文字の下書は、墨書されていたことが判った。

(イ) 西願禪門供養の碑

No. 63	No. 34	No. 19	No. 27
卍	卍	卍	卍
応永十年十一月十七日 西願	西願 禪門	右志者応永十八年三月十一日	右志者応永十二年十月 西願日
同人死の二年前 逆修碑か?	同人十三回忌 (卍)供養か? 応永二十四年か?	同人七回忌 供養と推定 No.27と同五輪塔形式	西願禪門 百々日(卍)供養

(ニ) 住仙禪門供養の碑

No. 52	No. 37	No. 68
卍	卍	卍
永享五年七月十日 右住仙禪門	住仙禪門 永享二年十一月二十日	住仙禪門
同人 三周忌(卍)供養	住仙禪門 一周忌(卍)供養	住仙禪門 百々日(卍)供養

“墨書金箔”の板碑

十三浜 発見 全国初、貴重な資料に

換言すれば、墨書の銘文の上に金箔を施したものであることが判明したのである。

本碑は石巻文化センターに運ばれ、同センター学芸員中村光一、石巻石佛会の勝倉元吉郎らにより仔細に検討が加えられ、更に真正が裏づけられた。なおのちに同遺物の一基No.88の碑の中央部にも「妙」の墨銘があることも確認された。No.92の碑については八月二十一日、石巻文化センターにおいて、調査班より各新聞記者会見の形で発表があり、同月二十二日各社新聞で報道された。内容はほぼ同じなので「石巻日々新聞」記事を下に掲載する。

板碑には石文（文字）として彫刻の他に墨書があったのではないかと、とは研究家誰しもが懐く素朴な疑問であった。しかしその手掛りが得られなかったのは五百年という風雪を経ることで跡かたなく洗い流されてしまったためであろうか。

今回の調査によって従来の研究者の願望



発見されたのは一基
室町時代のものか

北七町十三浜で板碑の調査を実施していた河北地区教育委員会は、同所長塩谷社七、佐藤三かえん宅裏山から全国で初めてという墨書金箔（いす）に記した板碑を発見した。二十日午後、石巻文化センターで記者発表を行った。委員長は「一種子だけ石刻全面でも初めてという墨書墨で経路を出した板碑

んだ板碑はいくつもあるが、今年、墨書金箔の板碑が発見されたこと、これまで種子の下に何も書かれていなかった板碑も墨書金箔、あるいは墨だけで書かれた可能性が強い」として、調査方法の見直しを説いている。

板碑は鎌倉時代から室町時代にかけて、追善供養の目的で建てられた塔婆（一般的には上部に仏像や種子（梵字）などが彫られ、その下に建設

墨書、法名などが刻まれている。石巻地方にはこうした板碑が多く発見されているが、種々の板碑もあって、郷土史研究家たちは「なぜ建設墨書や法名を書かなかったのか」という疑問を抱いていた。

長塩谷三見つけた「墨書金箔の板碑は、こうした疑問を解くカギになる公算が強い。開闢の板碑は粘板岩ででき、おし、室町時代のものと考えられる。大きさは高さ五三、三、

幅十七、厚さ八・五、種子は十三回空を意味する魚形界大日如来の梵字が彫まれ、金箔が埋め込まれている。さらに、最大の特徴はその下に書かれた墨書金箔。肉眼ではうやく判読できる程度だが「妙」と墨で書かれ、その上に金箔が張ってある。

墨だけのものなら雨で流れてしまい、また、金箔をほどくことも期間で消えてしまわうのが通例。だが、発見された状況が土中であったため、墨書金箔が確認された。このほか同所一帯昭和五十八年の一次調査以来、百二基の板碑が出ていたが、現在まで墨書金箔が確認されたのは一基のみ。

しかし、半分以上が種子の下に何も書いていない板碑で調査関係者は「これらの中には墨書金箔があったのでは」と推測している。今回の板碑はそれを裏付けする貴重な資料と見なして語っている。

と疑問が、達せられ、氷解されたとしたら本調査の挙げた成果は極めて大きなものがあつたと言わざるを得ない。

二次調査においては三十六基という割合に小規模な調査であつたが、前記のように、墨書銘の碑が発見され、板碑研究に画期的な展望が開かれたこと、あるいは同一物故者に対する重複した年忌供養の例証が挙げられて、種子と十三佛配列の關係が実証されたことなど、思いもかけない大きな成果を挙げて終ることができた。

一次調査ののち保存遺跡として移設した現地は、国道三九八号線拡張整備事業、特に長嶺谷より白浜間のトンネル道に当るため再度移転を余儀なくされた。新祭祀地は現地のわずか西寄りの所で、社地脇の山裾に三段の壇をしつらえ、一次、二次調査の碑すべて合わせ、整然と建立し、篤く祭祀した。

茲に町当局、部落挙げての援助に、心より敬意を表すると共に、重要文化遺産が、無事にしかも良い環境の元に保護、再元できたことを深く感謝申し上げる次第である。

昭和六十二年十二月

報告書作制者

紫 桃 正 隆

写真トレース

(右 同)

長塩谷板碑群第二次調査報告

昭和63年1月25日 印刷

昭和63年1月31日 発行

発行 桃生郡河北地区教育委員会
宮城県桃生郡河北町相野谷字田会所前29の1

編集者 紫 桃 正 隆
(桃生郡河北地区文化財保護委員長)

印刷 株式会社 鈴木印刷所
石巻市乾田字新谷地前121

